〔八女市議会1期生研修 活動報告書〕

水 町 典子

研修日:令和7年7月14日(月)

研修内容:八女市東部・黒木斎場、日向神ダム事務所、花宗用水組合水利施設、

山下地区排水機場での現地視察並びに調査研究

活動報告

(1) 八女市東部・黒木斎場について

八女市東部の4斎場(黒木・上陽・矢部・星野)の中で、 稼働開始が最も古く、経過年数は53年となる。施設の 老朽化に伴い、維持管理費の増加が課題となっている。 最期のお別れをする際、故人が住み慣れた地域での 見送りをご遺族が望まれるといった観点から、斎場の 統合再整備には、慎重かつ丁寧な議論が最重要である。

				(令和7年4月1日	
	黒木斎場	上陽斎場	矢部斎場	星野斎場	八女西部斎場 (旧八女+立花)
場所	黑木町今1621番地1	上陽町北川内3628番地	矢部村北矢部5267番地5	星野村5447番地1	今福東原1356番地1
稼働開始	昭和47年4月	平成9年11月	昭和61年12月	平成8年4月	昭和54年10月
経過年数	53年	28年	39年	29年	46年
年間利用件数 (令和6年度実績)	220件	81件	22件	56件	799件
維持管理費	16,419,685円	4,622,535円	2,684,671円	3,202,267円	21,378,000円
1件あたり 必要経費	74,635円	57,068円	122,031円	57,183円	26,756円

(2) 日向神ダムについて

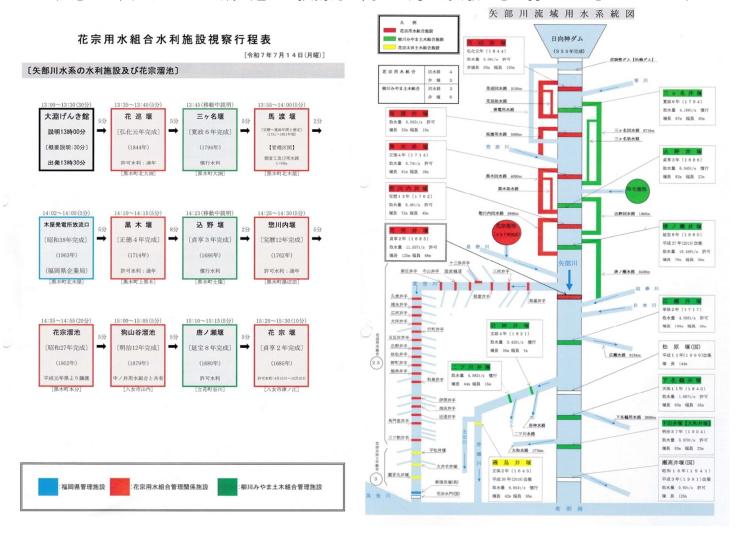
昭和28年6月の西日本水害において、矢部川で大洪水が発生。旧八女郡での被害は、死者 27名、家屋の全壊・流出被害は154戸であった。この水害を受け、矢部川の治水と地域への 電力供給を目的とした日向神ダムが、8年間の期間と48億円の総工費をかけて建設された。 今年は全国的に梅雨時の少雨による渇水が懸念され、調査時も水位は低かった。





(3) 花宗用水組合水利施設について

矢部川流域水系の井堰と花宗溜池の現地視察、調査を行った。最も古い井堰では、今から340年以上も前に築造されているが、当時の久留米藩と柳川藩が農業用水をめぐり争ってきた歴史がある。川より高い山の地中を通る回水路などもあり、先人たちが、生き抜くために必死に生み出した知恵と工夫と、それらを成し遂げる技術力の高さに対し、畏敬の念に打たれる思いであった。



(4) 山下地区排水機場について

平成24年九州北部豪雨の際、矢部川の水位が上昇し、流入河川である白木川、大倉谷川への逆流が起きた結果、山下地区では排水不良から多くの家屋で浸水被害が発生した。家屋の浸水被害解消に向け、樋門の増改築、排水機場や放水路の整備が行われている。

【調査を終えて】

近年、地球沸騰化とも言われる気候変動に伴い、水害発生の頻発化や激甚化、水不足による農作物の不作や、海産物の不漁など、〝水〟によってもたされる様々な現象は、人類のみならず、生きとし生ける地球上のすべての生き物の生存を脅かす大きな問題となっている。先人たちは自然との共存共生では謙虚さを忘れていなかったのかもしれない。今を生きる私たちも、地球環境への負荷を減らし、穏やかな水の循環によって、大地も人も全ての生き物も、潤されつつ、平穏に暮らしていけるよう、八女市をめぐる水の流れについて、謙虚に学ぶ良い機会となりました。